

Y12a 国立天文台水沢における最初の女性天文学者

馬場幸栄（国際日本文化研究センター）

昭和 63（1988）年 7 月、岩手県の水沢という町に国立天文台水沢が発足した。発足当初の国立天文台水沢には地球回転研究系、理論天文学研究系、水沢観測センターと呼ばれる 3 つのグループが存在し、計 35 名の研究者が配属されたが、そのなかに唯ひとり女性の研究者がいた。理論天文学研究系の助手（現在の助教）、佐藤イクである。彼女はいかにして国立天文台水沢最初の女性天文学者となったのだろうか。佐藤が国立天文台に勤務することとなったきっかけは 38 年前の緯度観測所にまで遡る。緯度観測所は明治 32（1899）年に水沢に設置された文部省直轄の天文台であり、各種の国際観測プロジェクトを担う世界的研究機関のひとつであったが、その膨大な計算作業は主に水沢出身の女性計算係たちによって支えられていた。水沢出身で、計算が得意かつ天文学にも興味があった佐藤もまた、昭和 25（1950）年 3 月に水沢高等学校を卒業するとすぐに緯度観測所に就職し、計算担当としてのキャリアを積んでいった。佐藤は緯度観測所において手回し計算機から電子計算機への過渡期を支えるとともに、国際緯度観測事業（ILS）、国際極運動観測事業（IPMS）、アストロラブ観測、浮遊天頂儀観測、Z 項等の計算作業に従事した。天文計算にとって不可欠な存在となった彼女は、同観測所が東京天文台や名古屋大学空電研究所第三部門と統合改組されて国立天文台水沢となると、そのまま同天文台の助手となった。平成 4（1992）年 3 月に定年を迎えたため国立天文台職員であった期間はわずか 4 年だったが、緯度観測所時代も含めると、佐藤はじつに 42 年にわたり天文学の発展に尽くしたのだった。